

2025
No.4

科・ぼ・せ・ん News Letter

2026.3.20発行

<https://ridai-svc.org/>

三木先生 大変お世話になりました

コーディネーターの三木先生が、今年度末をもって退任されます。2021年度からセンターに来られた三木先生は、イベントに向けての実験指導はもとより、相談相手として、常に学生に寄り添ってくださいました。ありがとうございました。



● 継続とは「力積」である

(コーディネーター 三木淳男)

5年間、コーディネーターとしてお世話になりました。ふりかえてみれば、2008年科学ボランティアセンター開設の少し前から、私は高原先生を通じて岡山理大の学生さんと一緒に活動することがありました(2006年10月に最初の記録あり)。ということは、かれこれ20年もの間、なんらかの形で科学ボランティアセンターに関わってきたようです。



「継続は力なり」という言葉があります。もう少し物理っぽく言い換えれば、「継続は力積なり」。いや、「力×時間=力積 なり」が良いですね。小さな力でも長時間加え続ければ大きな成果を生む。今までの科学ボランティアセンターの実績がそれを証明しているように私には思えます。



スタッフ会の諸君へ。イベント実施にあたっては「準備が8割、本番1割、片付け1割」です。「本番でうまくやってやろう」と思っはイケマセン。一人でやろうとせず、先輩やコーディネーターの先生に教えてもらってください(そのためにコーディネーターがいるのです)。練習を繰り返して本番にのぞみ、終わったらかならず振り返ること。そして最後の片付けも忘れずに。これが三木からのラストメッセージです。



この文章を読んで「科学ボランティアってなんだ?」と思った学生のみなさんへ。科学ボランティアの講義を受けましょう。そして、ぜひB4号館にある科学ボランティアセンターに来てみてください。「実験が好き。子どもが好き」という楽しい先輩たちがあなたを歓迎してくれることでしょう。扉はあなたに向かって開かれています。



1月24日(土) 科学ボランティア教材研究 発表会

自分なりのオリジナル性を出そうと、今年も意欲的な発表がありました。



モーターの玩具



磁石



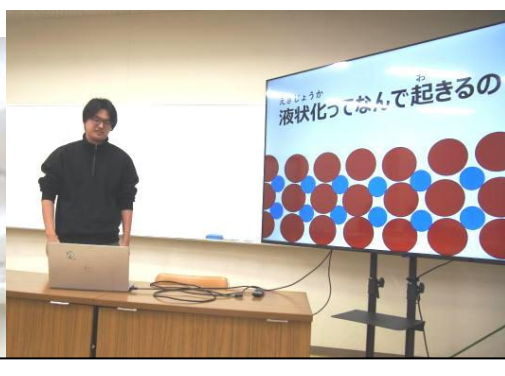
ろ過



空気の流れ

2月5日(木) 科学ボランティア活動1・2 発表会

科学ボランティアリーダーの資格取得に向けて、それぞれが成果を得た活動内容を発表しました



天体ソフトの活用・液体化っぴん、で起きるの・サソリのおもちゃ



簡単映写機とさかさまカメラ・同時に落ちる皿と風船・粉塵爆



＝科ボセンにある使える備品＝

(コーディネーター 糸山嘉彦)

科学ボランティアセンターが所有する、たのしい、使える道具や機器たちを紹介します。

Vol.15《電子天秤 BS-600》

最小表示が 0.1g の量りがほとんどですが、これは最小表示 0.01 g です。シンプル操作で、オートオフ機能付きの電子てんびん。最大計量 600 g で、簡易風防付もついています。



Vol.16《ニコン小型双眼実態顕微鏡(ファールミニ)》

手軽に楽しめる軽量コンパクトタイプの、携帯型の双眼実態顕微鏡です。屋外での観察や簡易検査に適しています。ヘッド部（光学部分）は 360°回転可能。三脚に装着すれば、プレートに置けないような立体物でも観察可能です。倍率 20 倍で携帯用ポーチ付。センターにはその他、NaRiKa の 30 倍で対象物の上から光を当てて観察できる落射照明標準装備、キャリングケース付きの「ネイチャーメイト」もあります。



2月10日(火) 安全講習会 講師:三木先生



興味本位が先立ち、結果として思わぬ事故に結びつくことのないよう、どのような所に事故の芽が潜んでいるのか考えさせられる講習会でした。これからも、事故なく子どもたちに楽しんでもらえるイベント運営をしていきたいものです。



2月11日(水)・2月20日(金) 実験講習会 講師:三木先生

退任される三木先生から、一つでも多くの技を引き継ごうと講習会が行われました。



- [分子模型製作]
- [紙トンボ]
- [プラトンボ]
- [ブンブンごま]
- [びっくりヘビ]



学生スタッフ会メンバー紹介

[備品管理] さきちゃん

生命科学部生物科学科 2年生



** 科ボラに入ったキッカケ **

私は当時、色々な部活やサークルを見て回っていましたが、どれも自分に合うものが見つからずに迷っていました。そんな時、C1号館の掲示板で科ボラの掲示を見つけました。科学は昔から好きで、自分の興味を活かせる場所かもしれないと思い、「一度行ってみよう」と考え、一人で見学に行ったことが、科ボラとの出会いのきっかけです。

また私は、人に物事を伝える力が弱いことに悩んでおり、将来的にもこの力を身につけたいと考えていました。何かの活動を通して、自分の苦手を少しでも克服できるきっかけになればと思ったのも、に入った理由の一つです。一人で活動の場に足を踏み入れることはとても緊張しましたが、先輩方の優しく丁寧な説明や子どもたちと接する楽しさの話を聞いたことで安心感を得ることができ、その場で入ることを決意しました。それ以来、「子どもたちに科学を楽しんでもらい、興味を持つきっかけを作りたい」という思いを持ちながら、子どもたちが楽しいと感じられるイベントにする為に活動しています。

** 科ボラでの活動 **

これまで参加してきたイベントの中でも、特に心に残っているのは、初めてブース責任者を担当した色水の実験ブースです。責任者として、子どもに教える内容や実験の手順、準備物、ブースの配置まであらゆることを計画する必要があり、その難しさを強く感じました。特に大変だったのは子どもたちにどこまでの内容を伝えるかを考え、説明を工夫することでした。

イベントを作り上げる難しさとそれ以上の楽しさを実感できた貴重な経験です。また、科ボラでの活動を通して、得意なことだけでなく、自分の苦手なことにも挑戦し、改善していくことの大切さを実感しました。子どもたちに伝えるためには、自分自身の理解や準備を深めなければならず、その過程で自然と自分の成長にもつながります。科ボラでの経験は、私にとって苦手を克服する大きなきっかけでした。今後も挑戦し続ける姿勢を大切にしていきたいと考えています。

[広報] あみらーぜ

理学部臨床生命学科 2年生



** 科ボラに入ったキッカケ **

私が科ボラに入ったきっかけは現副会長のゆにさんから誘っていただいたことがきっかけです。私は1年生の時に科学・ボランティア入門を履修していて元々科ボラには興味がありました。しかし、自分1人だけで行く勇氣はなかなかでませんでした。そんな時、学芸員課程で取っていた教育学原論でたまたま、ゆにさんと出会いました。どうやら私とゆにさんはいつも朝のバスが一緒だったらしく、ゆにさんは私にずっと話しかけたいなと思っていていたようです。そして科ボラを勧めていただき、一緒に科ボラに行き、そこから活動が始まりました。

** 科ボラでの活動 **

科ボラではブースの責任者やイベントの全体責任者を務めると、ブースやイベントのテーマを決めることができます。私は人体が好きで臨床生命科学科（現:医療技術学科臨床検査コース）に入ったということもあり、人体をテーマにしたブースや科学教室を行いました。1年生の時に初めてブース責任者を務めさせていただいた時には肺の模型を作るブースを行い、人間がどのように呼吸をしているのかを子どもたちに説明しました。そして、最近では科学教室で肺の模型に加えて聴診器を作ってもらい、実際に自分の心臓の音を聞いてもらいました。科ボラでは自分の専門分野を子どもたちに教えることができるので、自分自身にちゃんと知識が身についているのかを再確認することができました。